

# 地域再生法に基づく地域再生計画の事後評価

平成22年8月  
島根県・邑南町

## 1. 地域再生計画の概要

計画名称	交通ネットワーク整備による夢響きあう元気な町づくり計画
作成主体	島根県・邑南町
計画区域	邑南町全域
計画期間	平成17年度～平成21年度
支援措置	地域再生基盤強化交付金(道整備交付金事業)
認定日等	地域再生計画認定(平成17年6月17日) 地域再生計画変更認定(平成18年3月31日)
計画趣旨	<p>○平成16年10月に石見町、瑞穂町、羽須美村の3か町村で合併誕生した邑南町は419.2km<sup>2</sup>と広大な地域に5,251世帯13,455人が暮らしている。町中心部は病院、学校、行政機関など新町の主要施設が集中しているが、周辺地区は山林に囲まれた小集落が散在する中山間特有の地域であり町中心部への移動は最大で1時間程度を要する。このため、新町各地域間を結ぶ基幹道路網の整備、生活路線としての公共交通機関、更には21世紀の情報化時代に対応する高速情報ネットワークなど町民を支える様々な機能を高め、地域を結ぶ基盤整備を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・目標1)農林業の振興 (林道終点から邑智郡木材市場までの輸送時間短縮5分)</li><li>・目標2)町道整備による主要施設へのアクセス改善 (病院への通院時間短縮5分以内人口カバー率10%)</li></ul>

2. 目標を達成するために行う事業(地域再生法第5章の特別の措置を適用して行う事業)の実施結果

事業種別	施設名	区分	認定当初			変更後			実施結果			検証
			事業期間	事業量	事業費	交付金	事業期間	事業量	事業費	交付金	事業期間	
町道	①西本町中別所線	事業期間	H17~H21	H17~H20	H17~H20	当初計画とおり完了することが出来た。						
		事業量	W=5.0 L=400	W=5.0 L=400	W=5.0 L=399							
		事業費	140,000千円	139,000千円	157,400千円							
		交付金	70,000千円	64,450千円	78,700千円							
	②横引上別所線	事業期間	H18~H21	H18~H21	H18~H21	当初計画とおり完了することが出来た。						
		事業量	W=5.0 L=1,000	W=5.0 L=1,000	W=5.0 L=875							
		事業費	168,000千円	156,400千円	156,400千円							
		交付金	84,000千円	78,200千円	78,200千円							
	③石見中央線	事業期間	H19~H21	H19~H21	H19~H21	調査の結果、地盤が想定以下であったため改良コストが高付いたため期間内完了が出来なかった。次期計画で継続実施。						
		事業量	W=6.0 L=3,000	W=6.0 L=3,000	W=6.0 L=1,623							
		事業費	90,000千円	73,600千円	80,600千円							
		交付金	45,000千円	36,800千円	40,300千円							
	④小河内出羽線	事業期間	H17~H21	H17~H19	H17~H19	初期の計画を満足出来た。ルート精査により延長減。						
		事業量	W=6.0 L=800	W=6.0 L=800	W=6.0 L=700							
		事業費	161,000千円	115,100千円	115,100千円							
		交付金	80,500千円	57,550千円	57,550千円							
	⑤高見宇都井線(旧瑞穂分・旧羽須美分)	事業期間	H17~H21	H17~H21	H17~H21	詳細設計により橋梁の増設や法面対策工(法枠、ロックネット)の必要が生じた。当初計画した改良延長には達しなかった。走行性の確保とコスト縮減の両立が課題。次期計画で継続実施。						
		事業量	W=5.0 L=1,000	W=5.0 L=1,000	W=5.0 L=693							
		事業費	180,500千円	180,500千円	264,600千円							
		交付金	90,250千円	90,250千円	132,300千円							
	⑥菖蒲西線	事業期間	H17~H21	H17~H21	H17~H21	当初計画とおり完了することが出来た。						
事業量		W=4.0 L=900	W=4.0 L=900	W=4.0 L=900								
事業費		200,000千円	200,000千円	138,400千円								
交付金		100,000千円	100,000千円	69,200千円								
⑦西之原山根線	事業期間	H17~H21	H17~H21		事業用地の問題で休止。							
	事業量	W=4.0 L=300	W=4.0 L=300									
	事業費	60,500千円	60,500千円									
	交付金	30,250千円	30,250千円									
林道	⑧石見高原線	事業期間	H17~H19	H17~H19	H17~H20	当初計画とおり完了することが出来た。						
		事業量	W=5.0 L=1,571	W=5.0 L=1,578	W=5.0 L=1,576							
		事業費	200,000千円	200,000千円	232,200千円							
		交付金	100,000千円	100,000千円	116,100千円							
	⑨石見高原支線	事業期間	H17~H18	H17~H18	H17~H18	当初計画とおり完了することが出来た。						
		事業量	W=4.0 L=1,882	W=4.0 L=1,869	W=4.0 L=1,869							
		事業費	39,000千円	28,800千円	27,540千円							
	⑩黒坊線(舗装)	事業期間	H17~H20	H17~H19	H17~H21	当初計画とおり完了することが出来た。						
		事業量	W=5.0 L=4,541	W=5.0 L=4,541	W=5.0 L=4,505							
		事業費	90,000千円	86,540千円	86,820千円							
	黒坊線(改良)	事業期間	H17~H21	H17~H21	H17~H20	補助事業の活用と合わせ、当初目標以上の事業進捗が得られた。						
		事業量	W=5.0 L=227	W=5.0 L=739	W=5.0 L=463							
事業費		36,000千円	67,200千円	44,480千円								
交付金		18,000千円	33,600千円	22,240千円								
⑪角谷線	事業期間	H17~H21	H17~H18	H17~H18	計画以上の事業進捗が得られた。							
	事業量	W=5.0 L=310	W=5.0 L=220	W=5.0 L=271								
	事業費	35,000千円	17,280千円	17,280千円								
⑫三坂小林線	事業期間	—	H18~H21	H18~H21	開設単価の増高により、暫定施工区間を残すことになった。次期計画で継続実施。							
	事業量	—	W=5.0 L=1,400	W=5.0 L=403								
	事業費	—	303,000千円	355,800千円								
	交付金	—	151,500千円	177,900千円								

※ 地域再生計画の変更の認定については平成18年3月31日付で内閣府認定済み

	認定計画(変更後)			➡	最終実績		
	整備量(km)	事業費(千円)	交付金額(千円)		整備量(km)	事業費(千円)	交付金額(千円)
町道	7.4	1,000,000	500,000		5.2	877,100	433,500
林道	10.4	702,820	346,610		9.1	764,120	377,470
合計	17.8	1,702,820	846,610		14.3	1,641,220	810,970

### 3. 地域再生計画に記載した目標の達成状況

	指標名		設定時	目標値	実績値	評価
	目標の達成状況	目標1	農林業の振興 (林道終点から邑智郡木材市場までの輸送時間短縮5分)	5	5	10
	目標2	町道整備による主要施設へのアクセス改善(病院への通院時間短縮5分以内人口カバー率10%)	10	10	13	用地の問題で計画を取りやめた路線が1、予算枠が足りず完了が遅れた路線が1生じた。その他5路線については計画どおり実施出来た。7路線7.4kmの計画に対し6路線5.2kmを改良出来た。その結果当初10%の目標に対し13%の人口カバー率を算定しており、目標を達成出来たと考えている。

### 3. 目標を達成するために行う事業(その他の事業)の実施状況

項目	取り組み内容	実施状況
利用しやすい交通体系の整備	交通シミュレーションシステムを導入し、高齢者や障害者が利用しやすい公共交通サービスを構築することにより、町内の移動の利便性向上を図る。	高齢者や障害者の方が利用しやすい公共交通体系を構築するためには、バス情報をわかりやすく提供することも重要な要因である。町においては、この様な視点から、川本町と連携し「川本町邑南町地域公共交通総合連携計画」を作成した。この計画には主要駅等の乗継拠点における待合環境の整備をはじめシミュレーションシステムの導入検討など、様々な施策を盛り込んでおり、できるものから着手していくことにしている。
参加・滞在型観光の推進	邑南町田舎ツーリズム推進協議会を設立。民泊受け入れ農家を募集し、安らぎと憩いの空間を提供することにより滞在型観光を推進する。	平成18年1月に邑南町田舎ツーリズム推進研究会を新たに設立し、(設立当初会員数48名 民泊数4軒)民泊実践者を核として、田舎体験(山菜祭り・芋ねえちゃんまつり)や、都会地の小学生等の受け入れ等を実施している。(H23年2月末 会員数93名 民泊件数12軒)この取り組みにより都市農村交流人口が着実に増加しており、今後も継続して実施していく予定である。
新しい農業の創造	団地内の農地や農道などの基盤整備を行い、大型機械の導入などによりコスト削減を図る。又水田を畑地化等により水稲中心の農業から野菜などの付加価値産物への転換を促進する。	農業後継者不足や耕作放棄地対策のため、町内各地で農業法人等農作業の組織化が図られ、機械の大型化が進んでいる。一部地域については幹線道の改良が遅れ、農業の組織化の支障となっている。この為地域農業の核となるW=5.0mの幹線道整備を継続的に実施する必要がある。

### 4. 総合評価及び今後の方向性

本地域再生計画に基づく町道と林道の一体的な整備により、平成16年10月に合併誕生した邑南町の中心部から周辺集落を連絡する交通ネットワークの構築に関して、5ヵ年での目標を概ね達成することができた。このことにより、移動時間の短縮、交流や物流の促進が図られ、地域住民の暮らしやすさが向上した。また、隣接の川本町と「川本町邑南町地域公共交通総合連携計画」を樹立し、本地域再生計画による道路整備の効果拡大を図る施策を展開することにつなげることもできた。更に、町西南部の中国自動車道瑞穂インターを經由して広島市や浜田市へのアクセスもより良好となり、高速道路を活用した振興策を模索する範囲が広がった。その1つとして、「邑南町田舎ツーリズム推進研究会」を設立し、田舎体験をコンセプトとした都市生活者の来町を目論み、また、小学生の民泊を受け入れる取り組みにより都会農村交流人口を着実に増加させている。

しかしながら、基幹産業である農業に目を向けると、過疎化・高齢化による後継者不足や耕作放棄地の拡大に歯止めが掛からないことから、農業法人等農作業の組織化、機械の大型化によるコスト縮減、農地の流動化を図り、併せて水稲中心の農業から野菜などの付加価値産物への展開、邑南町ブランド作りなど、新しい農業の創造が課題となっている。

本地域再生計画の成果と残存する課題を総括し、次期地域再生計画である「Oh!なんと安心と癒しのまちづくり計画」では、町民と行政が一体となり、邑南町の個性を活かした地域活性化を図りたい。